

臨地実習を終えて

～「患者に寄り添い、不安を安心に変えることができる歯科衛生士」を目指します～

臨地実習に臨むにあたり、歯科医療人としての自覚を持ち、自ら向上する姿勢を身につけることが大切だと考えていました。また、コミュニケーションを円滑にするために笑顔で挨拶や会話するよう心掛けること、自分自身で物事を客観的に捉え、積極的かつ臨機応変な行動をとることが必要だと考えていました。

実際に臨地実習が始まると、今まで学んできたこと以上の知識や技術が多く、毎日が必死で大変だと思うことの連続でした。しかし、実習先の歯科医師や歯科衛生士の方がわかりやすく丁寧に教えて下さり、学内での講義や実習で得た知識や技術と結びつけて理解することができました。患者さんが安心して治療を受けるために、社会のマナーである基本的な言葉遣いや態度、医療人としての心構えを身につけることの大切さを実感しました。

実習中の悩みや不安を友達と共有し、先生方からはアドバイスをいただき、臨地実習で学ぶことは楽しいと感じました。臨床現場では、患者さんの話に耳を傾け、治療に対する不安な気持ちに寄り添うことができました。実際に働いている歯科衛生士の方のように、患者さんの年齢や性格に応じたアプローチを行うことが出来るようになりたいと思いました。将来的には、患者さんに笑顔で「ありがとう！」と感謝されるような歯科衛生士を目指したいと思います。

臨地実習が始まるまでは緊張と不安でいっぱいでしたが、とても貴重な経験をさせていただきました。4月から始まる3年生の臨地実習では、さらに知識や技術を身に付け、自分自身の目指す「患者に寄り添い、不安を安心に変えることが出来る歯科衛生士」に少しでも近づけるようにがんばりたいと思います。

口腔保健学科2年 山内初佳